

IRB番号「2019-1131」

研究課題名「遠隔転移を伴う肝胆膵領域癌の検討」

1. 研究の対象

2005年4月から2018年12月に当院で肝胆膵領域癌に対し手術を受けられた方

2. 研究の目的・方法

肝胆膵領域癌は予後が不良であることが知られており、5年相対生存率をみると、肝癌は約30%、胆嚢・胆管癌では約20%、膵癌では約7%である（国立がん研究センターがん対策情報センター）。これら肝胆膵領域癌の示す生存率は、全癌種の中で最も悪いグループを形成しており、特に遠隔転移を伴うものではさらに予後が不良である。今日に至るまで、肝胆膵領域癌に対する根治治療として外科手術の担う役割は非常に大きなものであるが、遠隔転移を伴う肝胆膵領域の悪性腫瘍に対する外科治療の意義は明らかになってはいない。しかし近年の抗がん剤の進歩により、遠隔転移を伴う肝胆膵領域癌に対しても、化学療法を併用し外科切除を行うことで長期予後が得られることも少なくなってきた。本研究では、当院で治療を行った肝胆膵領域癌の臨床データを利用し、遠隔転移を伴う肝胆膵領域癌に対する治療効果等について検討する。

3. 研究期間

承認日 ～ 2024年08月31日

4. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：電子カルテより取得する。

- ①臨床所見（年齢、性別、身長、体重、病歴に関する情報（診断名、既往歴、嗜好歴、家族歴、臨床病期）
- ②血液所見（CBC、白血球分画、生化学一般、腫瘍マーカー、凝固能）
- ③各種画像所見（CT、MRI、PET/CT、EUS、ERCP）
- ④手術所見（術式、リンパ節郭清度、腫瘍遺残度）
- ⑤病理学的所見（腫瘍占拠部位、病巣の数と大きさ、肉眼型分類、局所進展度、リンパ節転移、遠隔転移、組織型、間質性、浸潤増殖様式、リンパ管侵襲、静脈侵襲、神経浸潤、主膵管内進展、）
- ⑥手術の治療成績（手術時間、出血量、合併症の発症率）
- ⑦予後（観察期間、再発様式、生存期間、無再発生存期間）
- ⑧術前・術後の化学療法（レジメン、投与期間、効果判定）

本研究に用いる下記の試料・情報につきましては、倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、個人が特定されないように適切に匿名化処理を行った上で取り扱っています。

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人 がん研究会有明病院
〒135-8550東京都江東区有明三丁目8番31号
研究責任者 肝・胆・膵外科 部長 高橋 祐
連絡先：電話番号03-3520-0111(代表) FAX番号03-3520-0141

研究責任者：

公益財団法人 がん研究会有明病院
〒135-8550東京都江東区有明三丁目8番31号
研究責任者 肝・胆・膵外科 部長 高橋 祐
連絡先：電話番号03-3520-0111(代表) FAX番号03-3520-0141